

平和教育のカリキュラム

○講座の紹介記事から

- 日本の平和教育は、第二次世界大戦での戦争被害体験の題材を多く扱っていた。
- 広島・長崎の被爆体験や、沖縄の地上戦体験、都市への空襲体験を学ぶだけでなく、平和を創ることを学ぶのも必要である。
- 平和教育実践のマンネリ化や形骸化を防ぎ、子どもが興味・関心を持って学べるように、発達段階に応じて学習目的を系統化し、平和教育カリキュラムを作成することが必要である。

(1) 平和教育カリキュラムの課題

① 平和な社会を形成する課題

- 平和な未来を視野に入れて、平和形成への参加
- 多様な平和問題への距離感とそれへの対応

② 現在のウクライナ戦争・ガザ紛争についてどう教えるかの課題

- 現在の戦争であれば、テレビや新聞やネットにさまざまな情報や画像がニュースとして流される。子どもがニュースを見て問いかけてくる。

③ 平和教育の学習目標をどうするのか

- 狭義の平和教育と広義の平和教育
- 消極的平和と積極的平和、バランスを決めるものは、

表1 平和教育実践のための手びきや指導資料など

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 1970 『平和教育の手びき』（小学校編検討用試案）→1972（小学校編第一次試案） [広島市]• 1976 日本平和教育研究協議会編『平和教育』の創刊• 1977 国民教育研究所編『平和教育の理論と実践』• 1975 指導資料『平和教育の指導例集』（小学校編） [広島市] |
| <ul style="list-style-type: none">• 1981 広島平和教育研究所編『平和教育実践事典』• 1987 指導資料『平和教育の指導資料』（小学校編） [広島市] |
| <ul style="list-style-type: none">• 1990 『平和教育実践選書』（全11冊）、桐書房• 1993 沖縄県教育委員会「平和教育指導の手引き」 |
| <ul style="list-style-type: none">• 2004 指導資料『平和教育の指導資料―被爆体験の確かな継承のために―』（小学校編） [広島市]• 2006 指導資料『平和教育の指導資料―平和教育の指導計画試案―』（小・中学校編） [広島市]• 2009 日本平和教育研究協議会編『平和教育』 休刊 |
| <ul style="list-style-type: none">• 2013 「平和教育プログラム指導資料」 [広島市]• 2013 『ひろしま平和ノート』を作成し配付• 2015 「学校における平和教育のより一層の充実に関する質問に対する答弁書」（2015.9.15付け）• 2016 「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」初版 日本ユネスコ国内委員会• 2018 長崎市教育委員会「平和教育手引書」、同年『平和ナガサキ』（改訂版） |
| <ul style="list-style-type: none">• 2023 「平和教育プログラム指導資料」と『ひろしま平和ノート』を改訂 [広島市] |

自民党政府・文科省の対応

2015年に参議院での質問に対する「参議院議員藤末健三君提出学校における平和教育のより一層の充実に関する質問に対する答弁書」

- 質問趣意書「学校において戦争の悲惨さや復興への努力を伝える平和教育のより一層の充実が必要と考えるが、平和教育の現状及び本談話を受け今後平和教育の充実にどのように取り組むのかについて、政府の見解を示されたい。」
- 答弁書の回答： 学習指導要領に基づき、児童生徒の発達段階に応じて行われているとする。中学校社会科の学習指導要領（平成20年告示）内の記述から、「大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる」、「日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせる」、「戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる」などを挙げている。[文科省として]「今後とも、各学校において、学習指導要領に基づき、平和に関する教育が着実に実施されるよう、都道府県教育委員会等を通じて指導してまいりたい。」
- 質問主意書「戦争体験を語り継ぐ次世代の「語り部」を育てていく必要があると考えるが、政府の見解を示されたい。」
- 答弁書の回答： 「政府としては、戦没者遺族等の関係者が高齢化する中、先の大戦の記憶を風化させることなく次の世代に継承するため、御指摘のような取組を進めていくことは重要と考えており、戦傷病者等に関する証言映像の作成の迅速化や若年世代の語り部の育成について検討しているところである。」

(2) 発達段階に応じたカリキュラム開発

- 広島平和教育研究所編『平和教育実践事典』(1981)に記載されている平和教育の3つの目的は、日教組の平和教育の3目標(1981)として転載されている。下に平和教育の目標を引用する。
- ①戦争のもつ非人間性、残虐性を知らせ、戦争への怒りと憎しみの感情を育てるとともに、平和の尊さと生命の尊厳を理解させる(感性的な認識)、
- ②戦争の原因を追求し、戦争をひきおこす力とその本質を科学的に認識させる(知的な認識)、
- ③戦争を防止し、平和を守り築く力とその展望を明らかにする(実践的な認識)(日本教職員組合他編1981)

表2 発達段階別に見た平和教育の学習目標

平和教育プログラム（広島市教育委員会 2013、2023下記に変更なし）		平和教育手引書（長崎市教育委員会 2018）	
小学校 1, 2, 3学年	被爆の実相に触れ生命の尊さ や人間愛に気づく	小学校 1, 2学年	平和の大切さに気づき 平和への想いを伝える
		小学校 3, 4学年	平和の心を育み、平和 への想いを伝える
小学校 4, 5, 6学年	被爆の実相や復興の過程を理 解する	小学校 5, 6学年	平和への心を深め、平 和への想いを伝える
		中学校 1, 2学年	平和について過去と現 在を見つめ、行動する
中学校 1, 2, 3学年	世界平和にかかわる問題を考 察する	中学校 3学年	平和について未来を考 え、行動する
		高等学校 1, 2, 3学年	平和で持続可能な社会の実現 について展望する

- 戦争体験の「継承」→平和の「発信」（広島市教育委員会 2013）→平和の「創造」（長崎市教育委員会 2018）。
- 長崎市の「平和教育手引書」（長崎市教育委員会 2018）は、方法として広島市と同様に「対話型授業の実践」を重視している。

表3 発達段階別に見た学習目標（例示）

発達段階	戦争についての学習目標	平和形成方法についての学習目標
小学校1・2・3年 《小学前期》	児童が絵本や副読本などの教材を通して、国内外の戦災の様子や人々の気持ちを理解できる。	自分や家族、友だち、動植物など生命あるすべてを大切なものとして尊重し大事にする心情を育てる。命や家族の大切さ、戦争の恐さを理解できる。
小学校4・5・6年 《小学後期》	児童が地域にある戦争体験を聴いたり、副読本を活用したり、地域や国内外の戦争の実相を多面的に理解する。地域や日本の戦争の歴史について調べて発表するなどの学習を通して、戦争の実相について理解できる。	平和形成の方法を自分なりに考え、平和社会の形成に貢献した人々や団体に対する尊敬や感謝の念を深めることができる。
中学校1・2・3年	中学校生徒が、国内外の戦争の実相や国際社会の平和問題について、平和で民主的な社会を形成するという観点から、教科書や副読本などを活用して、より良い平和な社会や国際関係について主体的に構想できる。	解決すべき平和の課題を探究し、自分の考えをまとめるなどの学習を通して、世界平和に関わる問題について考察し発信できる。
高等学校1・2・3年	高校生徒が、社会背景や政治情勢等を踏まえ、国内外の戦争の歴史や、国際社会の平和課題の解決に向けて、多面的・多角的に理解し、主体的に発信できる。	望ましい紛争解決のあり方についての考察を深めるなどの学習を通して、主体的に平和の尊さや人間の尊厳についての認識を深め、より平和な社会の実現について展望し発信できる。

(3) 多面的・多角的に見るとは

○多面的に見る、⇒立体的見方 …… 対象を動かす

- = 複眼的、複層的、重層的な見方
- 戦争被害と戦争加害、抵抗や加担もある
- 侵略戦争と自衛戦争

○多角的に見る、⇒多方向からの見方 …… 自分が動く

- = 双方向的な見方
- パールハーバーの見方
- 原爆投下の見方
- キノコ雲の上から見る、下を見る

○メタ的に見る …… 見ている自分を上から見る

- = 俯瞰する、鳥瞰する、眺望する見方
- 歴史的見方 過去を見る、将来どう見えるか

図1 戦争を見る視点

○【侵攻される側】ウクライナ・・・日本

- 空爆される市民の被害状況
- 日常生活の破壊 学校、病院、インフラ
- 戦争下の避難 砲撃避難場所（防空壕と地下室）、逃げる 避難／避難民
- 戦争被害 家族の別離
- 戦時下の国家総動員体制 18～60歳までのウクライナ人男性は出国禁止
- 言論統制・政治的規制
- ロシアとの友好モニュメントの破壊、ロシア語文化の禁止

○【侵攻する側】ロシア・・・日本

- 接収、言論弾圧・人権弾圧、徴兵
- 教育の統制 密告の奨励 相互監視社会
- 言論統制・政治的規制
- ウクライナをナチス呼ばわり

【周辺国・関係国】

避難民の受入、軍事支援
サンクション、報復（ボイコット、禁輸、非友好国）

遠くと近くの戦争の乖離（隔たり）を埋める。
「今ウクライナで起きていることと、昔日本で起きていたこと」

(4) カリキュラムへの公的支持と政治的規制

○平和教育への批判がある場合

①戦争時は平和教育プログラムの実施は難しい

- 平和教育が政治を変えられない、政治が平和教育を規制する
- 利敵行為 対立関係や戦時中に平和や反戦を唱えると反発

②愛国心重視派からの批判

- 保守サイドから、非武装中立論、自衛隊反対、憲法9条擁護に対し偏向批判
- 日本の加害の歴史（黒歴史）を伝えるのは愛国心育成に不都合
= 戦争加害行為を重視するのを自虐的と批判

③被害者ナショナリズムの問題点

- 被害者ナショナリズムから、相手国の加害を批判する愛国心教育に利用

(4)-2 持続可能な開発のための教育(ESD)

- 2016 「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」初版 文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会
 - 「日本が提唱した「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD)」は、まさに地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育です。」
- Q：ESD と SDGs との関係が分かりません。また、「ESD」という言葉は難し過ぎるので、これを用いずに活動を展開しても良いでしょうか。
- A：ESD は、SDGs のターゲットに位置付けられているとともに、持続可能な社会の創り手の育成を通して、SDGsの全ての目標の実現に寄与するものであるとされています。
- 持続可能な社会づくりを自分事としてとらえるにはどうしたらよいかを考えること自体がESDの目的の一つです。「ESD」という言葉を使わずとも、地域や対象者の実態に応じて、より理解しやすい用語について考えることは、ESDの普及を考える上では推奨される取組です。

(4)-3 軍縮教育・不拡散教育について

- 1978年の第1回軍縮特別総会の開催。
- 1980年 ユネスコ主催の軍縮教育世界会議の最終文書では、「軍縮教育」を、軍縮に関する教育と軍縮のための教育の両方を含む（野島 2012）。
 - 軍縮教育が基づく「原則・考え方」として、軍縮と教育の関係性、経済的・政治的現実を考慮する必要性、人権・開発問題とのつながり、客観的情報の重要性、批判的思考力の必要性、文化の多様性・社会正義などの価値観を基礎に置くべきこと、などと整理された。
- 軍縮教育の推進は日本の防衛政策と目標がぶつかる。軍縮教育は平和教育と補完の関係ととらえられる。また、軍縮教育の中に不拡散教育が含まれ、両者は相互補強関係とされた（中村 2022）。
 - 「軍縮教育が自国の核兵器依存政策の転換を求めるものであったり、そうした教育の広がりが政府の望まない方向での世論形成に繋がりがねないと危惧されていたりすれば、政府側からはおのずと反発や抵抗が生まれるだろう。」（中村 2022、p.5）
- 裏を返せば、現状において政府から反発がないのであれば、軍縮教育が政治を動かして「軍縮」に向かのに十分な実質的力を持ち得ていないことを示す。

参考文献・資料

- 中村桂子 2023、「軍縮教育の将来：被爆地の役割を考える」（RECNAポリシーペーパー16） p.11-15
- 日本ユネスコ国内委員会 2016、「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」初版（文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会）
- 野島大輔 2012、「軍縮・不拡散教育」の理論と実際—中等教育でのカリキュラム開発と実践報告を主眼として— 『立命館国際研究』 25-1
- 広島市教育委員会 2013、（2023年改訂）「広島市立学校 平和教育プログラム指導資料
- 広島市教育委員会 2013、『広島平和ノート』
- 広島市教育委員会 2023、『広島平和ノート』

資料取得可：<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/education/16812.html>

- 丸山剛史、外池彩萌 2023、「日本平和教育研究協議会と雑誌『平和教育』（二）一誌面構成—」 『宇都宮大学共同教育学部研究紀要. 第1部』（73）
- 森川敦子 2017、「広島市立学校平和教育プログラム」 『平和教育学事典』
- 村上登司文・高見祥一 2023、『平和教育の授業づくり：戦争を知らない教師が平和教育をどう行えばよいか』（web版あり）
- 平和教育実践のためのリンク集

<http://peace-education.info/murakami/2016PE/peLink.html>